

侃々諤々

JJ1SXA 池

「侃々諤々」(かんかんがくがく)と「喧々轟々」(けんけんごうごう)と言う言葉があります、時々「けんけんがくがく」と間違った言い方をする人がいます、侃々諤々と喧々轟々が混同されてできた語のようです。

先日もあるテレビの番組で、有名な代議士先生が、堂々と「けんけんがくがく」と言っていました、かの有名な「漢字読めない」の先生ではありません、念のため。

侃々諤々とか喧々轟々と言う言葉が原稿にあったら、この「漢字読めない」の先生はどのように読んででしょうか？大変興味のあるところです。

侃々諤々、喧々轟々は似たような言葉ですが、意味は全く違います、侃々諤々は「正しいと思うことを堂々と主張するさま」で、喧々轟々は「大勢の人がやかましく騒ぎたてるさま」とのことです。

似たような発音の「拳拳服膺」などという、現代では余り聞かない言葉もあります、「人の教えや言葉などを、心にしっかりと留めて決して忘れないこと」という意味を持っています。

「拳拳」は両手でうやうやしく物を捧げ持つ形容で、「服」はつける意味、「膺」は胸を意味しており、その形から「拳拳服膺」という言葉となっているようで、ここまでの解説を知ると、うん、なるほどと納得です。

それにしても、両手でうやうやしく物を捧げ持つ形を「拳拳」と表現した先人に敬意を表します、確かに「グー」に握った両拳が胸にくっついている様は、イメージとして目に浮かびます。

「漢字読めない」の先生を揶揄したようなことを書きましたが、私も読めない漢字は多くあります、「漢字検定」がどうだこうだ言う以前の問題、もっと漢字の基礎を勉強しなければいけないと感じました、私の小中学時代は、貧乏家庭でろくろく買って貰えなかったことと、生来の勉強嫌いが相俟って、ほとんどノートを持っていない、使わないが原則で、漢字の書き取りの勉強などやったことがない、でも負け惜しみで、俺は優秀だから、頭の中に叩き込めば良いだけの話、ノートなどいらぬなどと豪語していたのだから、先生も困った子供と思っていたことでしょう、単なる負け惜しみで、そんなわけは無い、恥ずかしき思い出です。

そんな習慣が尾を引き、社会人になっても、予定表持たず、電話帳持たずでやってきました(よくぞ大きな失敗をしないで来られた、今思えば大冷や汗ものです)が、歳を重ねるに従い、そんなわけにはいかなくなり、手帳は必需品となりました。

でも考えてみれば、記憶に関しては、少しは良かったのかなとも思えます、仕事からみでは、当時 100 台余の営業車の登録年代、登録ナンバー、2 人の担当者を 1 号車から全車、楽々と諳んじていましたし、無線の QSO、特にコンテスト(国内 6mCW では、たかだか 200 余局)の時は、PC も整理簿も無し、記憶のみでデュプチェックできていましたが、そんなことは、今は昔の夢物語となりました。